

2006年6月6日

札幌市中央区北9条西15丁目28番地196

株式会社ソフトフロント

代表取締役社長 阪口 克彦

(証券コード番号:2321)

ソフトフロント、次世代携帯情報端末アプリケーションの標準化団体「OMA」に参加 ～ 標準規格に準拠したミドルウェア製品のより迅速な提供が可能に ～

株式会社ソフトフロント(本社:札幌市、代表取締役社長:阪口 克彦 以下、ソフトフロント)は次世代携帯情報端末のアプリケーション標準化団体である OMA (Open Mobile Alliance) に 2006 年 5 月 11 日にアソシエートメンバーとして参加いたしました。

ソフトフロントは、今後の次世代携帯情報端末市場を非常に有望かつ重要な市場であると捉え、本市場での製品・ソリューションの開発・提供を加速するため、今回の参加を決定いたしました。

OMA は、世界各地の国・地域、通信キャリアや端末の差異を超えて動作する、次世代携帯情報端末用アプリケーション(モバイル情報・通信・エンタテインメントサービス)の標準規格を策定し、その幅広い普及・促進を図るために、2002 年 6 月に設立された標準化機関です。

OMA には、世界各国の主要な通信キャリア、モバイル端末・ネットワーク機器メーカー、ISP、コンテンツプロバイダなど約 400 社が参加しています。OMA は、このように多岐にわたる関係企業を参加メンバーとして迎えることによって、モバイルアプリケーションの標準規格を、より早く効率的に作成し、普及させることを目的としています。

OMA は主要な活動として、市場や顧客の要求に対応した標準規格と仕様の提供や、相互接続試験(TestFests)の実施、業界全体のコンセンサスの作成と、策定した標準仕様のプロモーションなどを行っています。また、次世代携帯情報端末に関連する標準化団体の活動を統合するため、IETF(*1)、3GPP/3GPP2(*2)、W3C(*3)、JCP(*4)などといった他の標準化団体との協力も随時行っており、世界の 30 以上の業界団体と提携契約を結んでいます。

この OMA によって標準化されたモバイルアプリケーションの 1 つに、「PoC (Push-to-Talk over Cellular)」があります。これは 3GPP によって規定された次世代携帯情報端末プラットフォームである IMS 上で動作するアプリケーションの仕様として OMA が定めたものです。

ソフトフロントの「PoC ライブラリ」は、この OMA の規格に準拠した製品です。このライブラリを利用するお客様は、世界の様々な地域の通信キャリアや携帯情報端末と相互接続性の高い PoC アプリケーションを容易に開発することが出来ます。現在 OMA には固定回線、移動通信技術の標準規格を策定する 15 以上のワーキンググループがあり、PoC の他に「プレゼンス機能」(*5)や、セキュリティ機能などの標準化への取り組みも行っています。

ソフトフロントは、OMA のアソシエートメンバーとして参加することによって、一般公開前の標準仕様文書の閲覧や、3ヶ月に1度のペースで開催される相互接続試験に参加することが可能となります。これにより、ソフトフロントは今後の次世代携帯電話アプリケーションの開発において、世界標準規格の仕様を、より早い段階に入手し、マーケットニーズに合った製品を迅速に市場に提供することが可能となります。また、相互接続試験に参加することにより、OMA 仕様の品質を確実なものとし、製品の相互接続性をさらに高めることが可能となります。

ソフトフロントは、今後も SIP(*6)/VoIP(*7)ミドルウェア製品をベースとした、次世代携帯情報端末市場に向けた製品・ソリューションの開発、提供を行ってまいります。

【参考資料】

OMA (Open Mobile Alliance) 概要

OMA は、世界各地の国、通信キャリアや固定・携帯端末の差異を超えて共通に利用できるサービスを開発する、標準規格を提供しています。OMA 会員の企業は、データサービス市場へのユーザーのニーズを元に、その拡大する市場をターゲットとし、より新しく機能拡張された情報・通信およびエンタテインメントサービスの採用を推進しています。OMA はワイヤレス技術のバリュー・チェーンにおいて、すべての重要な要素を提供する企業を含んでおり、サービスとアプリケーションのタイムリーで効率的な導入に貢献しています。

【用語解説】

(*1) IETF (Internet Engineering Task Force)

TCP/IP などのインターネットで利用される技術を標準化する組織。ここで策定された技術仕様は RFC として公表される。

(*2) 3GPP/3GPP2 (3rd Generation Partnership Project/3rd Generation Partnership Project 2)

第3世代、第4世代携帯電話の標準化プロジェクト。また、同プロジェクトによる移動体通信システムの標準規格。

(*3) W3C (World Wide Web Consortium)

World Wide Web で利用される技術の標準化を進める団体。

(*4) JCP (Java Community Process)

Sun Microsystems 社が主催する、Java 技術に関する標準仕様を定める機関。

(*5) プレゼンス機能

予め登録した相手の状態を「在席中」、「会議中」、「外出」のステータス表示によりリアルタイムに確認できる機能。現在は主にパソコン用のインスタントメッセンジャーなどで利用されている。今後、携帯端末や、情報家電への応用により、更にコミュニケーションの効率化を図る事が出来る。

(*6) SIP (Session Initiation Protocol)

IP 電話、ビデオ会議などを実現する新しいプロトコル(RFC3261)。Web の技術として有名な HTTP と同様にテキストベースであり、シンプルで拡張性が高いことから、IP 電話の標準的なプロトコルとして利用されている。最近では、その特徴を生かしてデジタル情報家電などへの搭載が注目されている。

(*7) VoIP (Voice over Internet Protocol)

IP ネットワークを利用した音声通話の技術一般を指す。現在、注目されている IP 電話は、この技術を応用したもの。

※ 記載されている団体名、会社名、製品名は一般に各団体、各社の商標または登録商標です。

※ 掲載文中では、TM、(R)マークは原則として明記しておりません。

【プロフィール】

■株式会社ソフトフロント

1997年設立のソフトウェア開発企業です。SIPとVoIPを核技術とし、業界から本分野の核技術の提供企業として注目されています。「技術を愛し、技術を提供することによって、社会変革の牽引役となり、豊かな社会を実現すること」を企業理念として、事業を展開しています。また、業界標準プロトコルである SIP に早くから注力しており、様々な技術とノウハウを蓄積してまいりました。現在は、これまで培ってきた SIP と VoIP に関する技術やノウハウを多数のメーカーやシステム・インテグレーターに提供し、それらのパートナー企業を通じて当社技術の普及を図る「SIP パートナープログラム」事業に注力しています。さらに現在は、各種 CPU/OS ベンダーとの連携により、SIP 開発環境の拡充を図っております。

URL: <http://www.softfront.co.jp>

【リリースに関するお問い合わせ先】

株式会社ソフトフロント

管理本部 広報担当

(札幌本社) 内海 電話:011-623-1035 FAX:011-623-1002

(東京本社) 中村 電話:03-3568-7007 FAX:03-3568-7008

E-mail: press@softfront.co.jp

【本製品に関するお問い合わせ先】

株式会社ソフトフロント

SPP 事業本部 営業グループ

電話:03-3568-7009 FAX:03-3568-7008

URL: <http://www.softfront.co.jp/spp/enquiry.html>